

A. 主な動き

1. 内政

▼ティモフティ新大統領の動き

・23日、ティモフティ新大統領は、大統領就任式における演説にて、モルドバの最優先目標として社会の団結、欧州統合、国家再統合、法の支配の4項目を列挙。

・27日、ティモフティ大統領は、経済成長、司法改革、汚職との闘いに当面取り組む考えを表明。

・30日、ティモフティ大統領は、ルプ大統領代行により任命された大統領補佐官の7名を解任。

▼その他

・28日、フィラト首相は、政治危機を再び繰り返さないために、残された任期の2年半の間に憲法の改正に取り組む考えを表明。

・30日、ヴォローニン共産党党首は、議会の信任を問う国民投票を10月21日に実施する可能性につき言及、議会において繰り上げ総選挙の日程を決定する場合にのみ同党は議会ボイコットを中断する旨発言。

▼世論調査

[GeoPOL]

・次の日曜日に議会選挙が実施された場合の政党支持率

共産党:33.7%、自由民主党:16.1%、民主党:10.6%、自由党:10.5%、社会党:1.5%等

・調査は3月4日から14日にかけて1,128名の成人を対象に実施

2. 外政

▼ディアコネスク・ルーマニア外相の来訪

・23日、ディアコネスク・ルーマニア外相は、モルドバを訪問し、ティモフティ新大統領と会談。同外相は、バセスク・ルーマニア大統領からの祝辞をティモフティ大統領に伝達し、ルーマニアはモルドバの欧州統合の支持を継続する旨発言。これに対し、ティモフティ大統領は、謝意を表明し、最近2年間の両国協力関係は実り多く、更に強化する旨発言。

▼ルプ議会議長のカザフスタン訪問

・26日、ルプ議会議長は、カザフスタンを訪問し、CIS諸国議会間会議創設20周年記念総会に出席。同議会議長は、カザフスタン上・下両院議長と会談し、両国議会間関係の活性化の必要性に関し協議し、OSCE議員会議及びCIS議会

間会議等の国際機関における協力関係の重要性を強調。また、同日、ルプ議会議長は、マトヴィエンコ露連邦院(上院)議長と会談し、友好的モルドバ・露関係の継続を約束。マトヴィエンコ議長は、モルドバが目指しているEUとの自由貿易協定はCIS議会間会議枠内の協力関係とは対立せず、補完するものである旨発言。

▼フィラト首相のベルギー訪問

・27日、フィラト首相及びレアンカ副首相兼外務・欧州統合相は、カラス欧州委員会副委員長(運輸担当)と会談し、モルドバ・EU間対話の活性化、経済・貿易関係の発展等に関し協議。同日、フィラト首相は、マルムストローム内務担当欧州委員と会談。同委員は、モルドバの改革が一層進展し欧州の価値へ接近することを期待する旨発言。

・28日、フィラト首相は、シュルツ欧州議会議長と会談し、モルドバは欧州の価値を遵守する旨宣言。双方は、モルドバの欧州統合及び沿ドニエストル紛争解決問題に関し協議。シュルツ議長は、モルドバ新大統領選出を歓迎する旨述べ、モルドバ政府の欧州統合路線の支持継続を約束。

3. 沿ドニエストル

・28日、カルポフ国家再統合問題担当副首相は、シュタンスキ・沿ドニエストル「外相」をはじめ「5+2」各代表者とのキシナウ市内OSCE事務所における作業部会(プレシゲル駐モルドバOSCE臨時大使が議長)に出席し、地域間の貨物列車の運行再開等の経済・社会問題に関し協議。

・30日、フィラト首相は、ティラスポリを訪問し、シェフチューク「大統領」と会談。双方は、30日以内に両地区間の貨物列車の運行を全面再開することで合意。

4. 防衛

・27日、フィラト首相は、NATO本部を訪問しラスムセンNATO事務総長と会談、共同記者会見においてモルドバはNATOとの効率的な協力を維持し、信頼できるパートナーとしての地位を示していく旨発言、またモルドバの中立政策はNATOとの協力関係を発展させるのに何ら支障がない旨強調。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)